

	発行者の略号	東書	教出
	書名	新編 新しい道徳	中学道徳 とびだそう未来へ
（ア） 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	未来を切り開くための力が身につけられるように、教材を選定し、学びが深められるよう工夫されている。	めまぐるしく変化する社会を生きるために必要なことを道徳の授業を通して考えていける構成になっている。
	（7）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①全教材の冒頭に学習のテーマが設定されている。 ①社会的に課題とされている「情報モラル」や「ジェンダー問題」などを考えさせる教材が選定されている。 ②付録の道徳×SDGsにより伝統と未来について考えることができる。 ③「生命尊重」と「いじめ問題」を扱う教材はユニット化されていて多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。	①生徒の日常生活でありがちな場面を取り上げており、自我関与を通して今後の生活に生かせるように工夫されている。 ①情報モラル教育として、SNSとの付き合い方や人間関係のあり方などについて考えられるようになっている。 ①3年ではLGBTについて取り上げており、正しい知識を身につけることができるようになっている。 ②「ひろば」のコーナーで学びの視点を広げる工夫がある。 ②ICTとSDGsの関係性を考慮した教材が掲載されている。 ③「いじめ」や「いのち」に関する教材がユニット化されている。
	（イ）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	各市町の方針に沿っている。	各市町の方針に沿っている。 ①1年では巻末に二宮尊徳の言葉が掲載されている。
	（ウ）内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ○生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①資料内に「つぶやき」欄を設けており、生徒が思ったことをすぐに書き込めるようになっている。 ②教材一覧表に「他教科との関連」の欄がある。 ⑥小学校で扱った教材が掲載されており、過去と現在の考え方を比較することで自身の成長を実感できるような工夫がされている。 ⑧冒頭の二次元コードから4コマ漫画等のコンテンツにアクセスでき、学習に取りかかりやすくなっている。 ○著名人や話題の人、最新のニュースなどを取り入れることで、関心を持ちやすく、理解がしやすくなっている。 ○NHK番組を教材として扱うことで、視覚的興味につなげられる。 ○生徒が興味をもてるよう、デジタルコンテンツを使用することで、登場人物の紹介などが動画で視聴できる。 ○1つの内容項目が3学年で系統的に配置され、学年が上がるにつれてより高度なものになっている。 ○各教材の冒頭に、その教材が内容項目の4つの視点のうちどれに当てはまるかを色とマークで示している。	③読み物資料だけでなく、自分の考えを書き込む資料が多くある。 ③巻末に学期末に記入する振り返りシートが付属されている。 ④様々な分野で活躍した人物の言葉が掲載されている。 ⑤「やってみよう」で体験的な学習が年3回はできるようになっている。 ⑥同じ項目のものを3学年の成長過程に適した題材で行っている。 ⑦全学年で情報モラルに関する教材がある。 ⑦まなびリンクから情報化に対応した指導ができるようになっている。 ⑧資料冒頭の二次元コードからさまざまなコンテンツにアクセスできる。 ⑧心情メーターが無償ツールである。 ⑧教材の始まりは右ページからになるよう配慮されている。 ○全教材のワークシートが指導書に同梱されている。 ○朗読や動画、アニメーション、導入シートなどのデジタルコンテンツがある。 ○各教材の冒頭に、学習指導要領で示されている4つの視点のうちどれに当てはまるかを色とマークで示している。
（イ） 教科・種目別の観点	（I）分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	②文章量が少なく、本時の議題に取り組みやすくなっている。 ③UDフォント、AB判 ③デジタル教科書による総ルビ表示により、生徒の理解度を上げている。 ○指導者用デジタルブックにアンケートフォームがあり、生徒、教員が授業後に評価をまとめることができる。 ・切り取り式の自己評価用紙が学期ごとに設けられている。	③UDフォント、カラーユニバーサルデザイン、B5判 ③話者を判別しやすくなる工夫がされている。 ○学習指導要領の4つの視点を絵と色で区別している。 ・学期末や学年末に振り返りができるシートが巻末に収録されている。
	①道徳的な課題を生徒が自分との関わりの中で、主体的に考え、自分の考え方、感じ方を明確にすることができるよう、「考える道徳」につながる内容構成になっているか。	①発問が2つに精選されている。「ぐっと深める」の補助発問でさらに生き方を深く考えることができる。 ①「考えよう」「見つめよう」の発問により、より一層考える仕組みが来ている。 ①教材の中で行われるやりとりをデジタルコンテンツで動画視聴することで、その場面がより現実的なものとなり、生徒が考えを深めることができるよう工夫されている。	①教材冒頭（導入）に「問い」を設けている。 ①各教材に3つの問いが設定されており、①問題意識→②自分事→③これからの生き方について考える構成となっている。 ①「学びの道しるべ」を用いることで、多様な考えに触れ、自分の生き方を見つめられるように構成されている。 ①すべての教材に導入のための問いがあり、ねらいとする道徳的価値の共有ができるようになっている。
	②自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えるために、多様な考え方、感じ方と出あい交流する「議論する道徳」につながる内容構成になっているか。	②「心情円」を用いて思考を可視化することができる。（デジタル＋紙） ②「気づく」→「考える」→「深める・広げる」→「振り返り」という学習の流れになっており、グループで話し合い、考えを深めることができる構成になっている。	②1年の教材に道徳における話し合いのポイントや流れが示されている。 ②二次元コード先にある心情メーターで思考を可視化することができる。 ②どの教材においても3つの発問から構成されており、物事を多面的・多角的に考える工夫がされている。
	③発達の段階に応じて、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れるための工夫や配慮がなされているか。	③プラスコラムによる学習の補助や役割演技が全学年に用意されている。	③「やってみよう」というコラムのページがあり、「役割演技」や「リフレーミング」、「ケーススタディ的に演じる活動」を通して生活の中で行動へとつなげる工夫がされている。

	発行者の略号	光村	日文
	書名	中学道徳 きみが いちばん ひかるとき	中学道徳 あすを生きる
（ア） 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	3 年間の見通しを持った構成がされていて、学びが深められるように工夫されている。	「自信をもつこと」「多様性」を大きなテーマとして構成され、新しい時代を切り拓くために必要な資質と能力が育めるように工夫されている。
	（7）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第 1 条、第 2 条）及び学校教育法（第 49 条・第 30 条 2 項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の 3 つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①教材冒頭に内容項目のマークと、価値のキーワードが示されている。 ①各学年の巻頭に、1 年間で学ぶことを確認するページや道徳の授業のポイントがまとめられていて、学ぶ内容や方法、意味を確認した上で授業に臨むことができるようになっている。 ②教材末に「つなげよう」や「見方を変えて」が設けられており、日常生活や学校行事、他教科などにつながるように配慮されている。 ③情報モラルやいじめに関する教材がユニット化されており、深く学べる。 ③各学年の巻末に、1 年間の学びを振り返る教材があり、自分の中の変化やこれからの生き方を見つめることができるよう工夫されている。	①全教材タイトル横に、内容項目のキーワードが記載されている。 ①教材が 3 年間を見通した構成と配列になっており、学校行事や発達の段階を踏まえていて、主体的に学べる工夫がされている。 ②SDG s を意識した編成となっている。 ②「自立と共生」「環境と未来」というテーマで集中的に考えられる工夫がなされている。 ③「いじめ防止」や「情報モラル」に関する教材が全学年で配置されている。 ③身近な人物から先人までの多様な生き方が扱われており、それぞれの悩みや葛藤など心の揺れやそれを乗り越える勇氣や気高さなどに気づけるようになっている。
	（イ）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	各市町の方針に沿っている。 ②1 年で寄木細工について扱っている。	各市町の方針に沿っている。 ①②「小田原箱根エネルギーコンソーシアム」や二宮尊徳の報徳思想について扱われている。
	（ウ）内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ○生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	②全体計画作成に伴って、各教科の教科書対応ができる。 ②教科書の最初に 2 2 項目との関連がまとめられている。 ③1 時間ごとの学んだことや気づきが記入できるようになっていて、学期末の振り返りの際に 1 年間の学びを 1 枚で見渡せるように工夫されている。 ④巻末に日本全国の世界遺産や工芸など文化や伝統を紹介するページがある。 ⑤対話の中から考える資料を多く取り入れている。 ⑧QR コンテンツ内にさまざまな動画資料や音声朗読が収録されている。 ⑧指導者用デジタル教科書内に、特別支援の視点で「スマイルメーター」が搭載され、感情を直感的に表現できる。 ⑧デジタル教科書には、総ルビ表示や文字や背景色の変更ができるなど、多様な生徒がいる教室でも授業に参加できるように工夫されている。 ○デジタル教科書を用いることで、場面や言動を簡潔に示し、焦点を当てて授業展開をすることができる。 ○3 年間を通して系統的に学べるような工夫がされている。例えば、人権教育では、1 年生で権利について学び、2 年生で人権が守られていない事実について学び、3 年生で人権を守るためにどうしていくかを考える構成になっている。	①学習の流れを、「気づく」→「考える・議論する・深める」→「見つめる・生かす」とし、主体的・対話的で深い学びになるよう配慮されている。 ②各教科に関連した教材が幅広く掲載されている。 ③ノート下部に、授業での学びや取り組みに関する振り返り欄を設け、主体的に考えることを促している。 ③複数の捉え方ができる参考資料や付箋やホワイトボードの活用など、話し合いが活発に行われるように工夫されている。 ③道徳ノートを付録してある。内容は、質問内容を記載せず、授業の中で柔軟に書き込めるようになっている。 ⑥各学年の学校生活に合わせた資料編成となっている。 ⑧二次元コードからワークシートや様々なコンテンツにアクセスできる。 ⑧教材名の下部に、登場人物の顔写真やイラストが掲載されている。 ○シンキングツールや話し合いの手法があり、理解しやすくかつ話し合いをさらに深めることができる。 ○タイトル付近に「主題」が示されており、その教材で何を考えるべきかがわかりやすく、取り組みやすい。 ○各教材の冒頭に、その教材が内容項目の 4 つの視点のうちどれに当てはまるかを色とアイコン、端的な言葉で示している。
（イ） 教科・種目別の観点	（イ）分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①漫画や詩、コメントなどの資料が多く視覚的効果があり、字を読むことに対して苦手意識がある生徒でも取り組みやすい。 ③UD フォント、カラーユニバーサルデザイン、B 5 変型判。 ・巻末に、年間の学習を振り返ることができるシートが収録されている。	③UD フォント、カラーユニバーサルデザイン、B 5 判。 ③ふりがなのフォントはゴシック体。
	①道徳的な課題を生徒が自分との関わりの中で、主体的に考え、自分の考え方、感じ方を明確にすることができるよう、「考える道徳」につながる内容構成になっているか。	①生徒が自ら問いを作る「チャレンジ 問いを立てよう」がある。 ①発問が 2 つに精選されており、さらに「見方を変えて」で多面的・多角的な視点を持てるように促している。 ①「ウェルビーイング」を実現するための配慮がなされている。 ①教科書自体に書き込む資料が多い。 ①各学年に 4 か所「まなびをプラス」があり、前の教材で学んだことを自分事として考えられるようになっている。	①発問がノートに印刷されていないため、生徒自身から出たテーマについて考えたり、教師が授業の方向を設定したりと、柔軟な使い方ができる。 ①発問はすべて「考えてみよう」と「自分に＋1」の 2 間に絞られており、1 つ目はねらいに迫るための問い、2 つ目は学んだことを生かすための問いとなっている。
	②自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えるために、多様な考え方、感じ方と出あい交流する「議論する道徳」につながる内容構成になっているか。	②各学年の最初の教材に「道徳の学習を始めよう」のコーナーがあり、学ぶ上での話し合いのポイントなどが掲載されている。 ②「まなびの道具箱」にペン図やピラミッドチャートがあり、一目で多様な考えを可視化できる。	②1 つの事象に対して様々な立場の人の意見が掲載されており、多様な考えを促す工夫がある。 ②QR コンテンツ内の「心情メーター」で思考が可視化できるようになっている。
	③発達の段階に応じて、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れるための工夫や配慮がなされているか。	③相手の立場となって自分の気持ちを伝える活動や、自分の気持ちをコントロールする方法（アンガーマネジメント）を学び、実際にロールプレイで体験するページがある。	③各学年に「体験してみよう」というページが設けられており、教材場面の役割演技を行うことで道徳的価値について多面的・多角的に考えを深める工夫がされている。

	発行者の略号	学研	あか図
	書名	新版 中学生の道徳 明日への扉	中学生の道徳
（ア） 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	多様性や情報モラル、グローバルといった現代的な課題が数多く盛り込まれた教材で、自らの未来を切り拓くために必要な資質と能力を育めるように構成されている。	自分らしく、未来を切り拓いていける力を育めるよう、「よりよい生き方」について考えさせられる教材が精選されている。
	（7）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①教材冒頭に内容項目の視点のみを4種類のマークで示している。 ①巻頭に「考えを深める4つのステップ」のページがあり、より深く学ぶための具体的なステップが掲載されている。随所に特設ページが設けられ、考えがより深まるように工夫されている。 ①「クローズアップ」では、教材に関連した内容を地域や過去の実話に結びつけながら紹介している。 ①最重点テーマを「いのちの教育」とし、内容項目「生命の尊さ」の教材を各学年3本ずつ配置され、よりよく生きるための道筋を見つけられるように工夫されている。 ③SDGs、多様性、キャリアに関する教材がユニット化されている。 ③情報モラルに関する教材が全学年で配置されている。また、いじめ防止に関連する教材が各学年6つ以上掲載されている。	①教材冒頭に内容項目の視点のみを4種類のマークで示している。 ①各学年の巻末に、SDGsが掲載されており、現代的課題について考えを深める工夫がされている。 ③いじめ・情報モラル・いのちに関する教材がユニット化されている。 ③道徳の内容項目に示された4つの視点からいじめについて考えることができるようになっている。
	（イ）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	各市町の方針に沿っている。 ③森と海のつながりで、2年の真鶴町の魚つき保安林が紹介されている。	各市町の方針に沿っている。
	（ウ）内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ○生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①読みもの資料だけでなく、絵や写真、図やグラフなどのバラエティに富んだ素材で構成されている。 ③巻末に、学期末に記入する振り返りシートが付属している。また、毎授業で気づいたことが書ける「学びのメモ」のページが設けられている。 ④日本の各地域に関連した内容が掲載され、その中には伝統や文化に関するものもある。 ⑧約半数の教材に二次元コードがあり、動画や写真にアクセスできる。 ○「考えよう」で数直線を用いることで自分の考えを表すことができる。 ○最新のニュースを多く取り入れ、身近な観点から考え工夫されている。 ○1つのテーマを2、3つの教材で構成されているユニット学習が全学年にあり、テーマについて多面的・多角的に学べる工夫がされている。	①現代的課題に向き合うために、「いじめについて」「情報モラル」「共に生きる社会」「キャリア」の4つのテーマをユニット化し、より深く考えられるよう工夫されている。 ②各教材の各教科や他の教育活動との関わりが、本冊の巻末に示されている。 ③教科書の巻末に「学習の記録」として、学期はじめと学期末に、目標や生かしていきたいこと、振り返りを記入するページがある。 ④日本人としての自覚をもって文化の継承・創造と社会の発展に貢献しようとする態度が養えるように編集されている。 ⑧二次元コードから、写真や動画など様々なコンテンツにアクセスできるようになっている。 ○各教材の冒頭に、その教材が内容項目の4つの視点のうちどれに当てはまるかを色とマークで示している。
（イ） 教科・種目別の観点	（イ）分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①詩や漫画、短い作文を多く取り入れ、簡潔に理解できるものが多い。 ②中学校で習う漢字や固有名詞にはルビがある。 ③UDフォント、カラーユニバーサルデザイン、AB判。 ③写真や図版を大きく掲載している。 ・学期ごとに授業について振り返ることができる、「学びの記録」シートが巻末に収録されている。	②未習の漢字や、固有名詞にはふりがなが振ってある。 ③カラーユニバーサルデザイン、UDフォント、B5判。 ③イラストの配置が工夫され、文章が読みやすくなっている。 ③1年生は本文の文字がやや大きくなっている。 ・二次元コードから補助教材資料が多くある。 ・巻末に学期ごとや年度末に学習を振り返ることができるシートがある。
	①道徳的な課題を生徒が自分との関わりの中で、主体的に考え、自分の考え方、感じ方を明確にすることができるよう、「考える道徳」につながる内容構成になっているか。	①「深めよう」のコーナーで、さらに教材について深く考えられるようになっている。 ①教材の冒頭に主題名を示さないことで、特定の価値観を押し付けずに生徒自らが考えられるようになっている。 ①ユニット学習で視点や内容項目の異なる複数の教材を関連させ、広い視野で考えさせる授業が展開できるようになっている。	①全教材で「いろいろな見方で考える」「考えを深める」と発問が2つに精選され、自己対話を重視した内容となっている。 ①教材で学んだ内容項目について、より理解が深められるよう「thinking」が配置されている。
	②自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えるために、多様な考え方、感じ方と出あい交流する「議論する道徳」につながる内容構成になっているか。	②「クローズアップ」のコーナーで、学びの視点を広げることができる。 ②「考えを深める4つのステップ」を巻頭に掲載し、道徳の学び方を提示している。 ②詩や漫画を題材にすることで、多角的な視点で議論することができる。 ②重点テーマは「命の教育」。さまざまな観点を通して「いのちの大切さ」について多面的・多角的に考えられるようにしている。	②「共に生きる社会」や「安全・防災」、「国際理解」などの生徒に考えさせたい10のテーマから多面的・多角的に学ぶ教材が多数ある。 ②すべての教材の最後に自分との対話をねらった問いがあり、実生活と結び付ける工夫がされている。
	③発達の段階に応じて、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れるための工夫や配慮がなされているか。	③2年：登場人物になりきり、場面を再現させる体験活動がある。 ③実体験のニュースを多く取り入れることで、「自分ならば」と考えさせられる教材が多い。 ③「深めよう」のページの内容が充実している。「やってみよう」として、登場人物の立場をロールプレイで体験する活動がある。	③道徳的価値についてより深く考えられるよう、「体験的な学習を促す教材」（マイプラス）として、役割演技の動作化、追体験などを掲載している。

	発行者の略号	日科	
	書名	道徳 中学校	
（ア） 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	現代的な課題と様々な視点から向き合い、未来社会を築く心を育めるよう構成されている。	
	（フ）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①一般的な学校行事の流れに合わせて教材が配置されている。 ①2年生では、性的マイノリティについての教材、3年では障がいのある人に対する合理的配慮について考える教材がある。 ①各学年の巻頭に「道徳授業を創り出そう」というページがあり、学ぶ意味についての確認や、大切にしていきたいことが掲載されている。 ①SNSとの付き合い方（情報モラル）に加えて、SNSのメリットについてもふれている。 ①とくに学校生活の中で、「いじめ」に陥りやすい場면을積極的に取りあげている。 ②AI、スマホ、ネット取引などネットトラブルの課題に取り組んでいる。 ③ウェルビーイングについて考えるための26枚のカードを掲載し、道徳教育とウェルビーイングが結びつけられている。	
	（イ）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	各市町の方針に沿っている。 ①1年の「天地と共に」の教材で二宮尊徳が扱われている。	
	（ウ）内容と構成 ○中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ○生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①登場人物の悩みや葛藤を共有し、道徳的問題や判断の結果を自分自身のことと捉え、考え、話し合うことで道徳的諸価値への理解が深められる。 ②学習指導要領の内容項目順に教材が配置されているため、学校独自に順番を変えて学習計画を立てることができる。 ④歴史人物やスポーツ選手などの著名人の生き方や体験から学ぶ教材が多く掲載されている。 ④巻末に地域や著名人のまとめがある。 ⑤文章の合間に自分の考えを書き込める資料がある。 ⑦インターネットによるトラブルから身を守ることをテーマとした教材が各学年に掲載されている。 ⑧ドラマ仕立ての動画教材や漫画教材が多い。 ⑧二次元コードからさまざまなコンテンツにアクセスできる。 ○SDGsについて考える教材が織り込まれている。 ○楽しく、わかりやすく学ぶため、各学年に漫画教材を多く取り扱っている。	
	（エ）分量・装丁・表記等 ①各内容の分量とその配分は適切であるか。 ②体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①1教材あたり4ページを基準としている。 ②植物性インキを用いており、アレルギーにも配慮している。 ③UDフォント、カラーユニバーサルデザイン、AB判。 ③4コマ漫画による各項目への意識づけがされている。 ③過去にどのような出会いをしてきたかで未来が創られると考え、表紙の写真は上段に日本の伝統文化、下段に新しい技術が掲載されている。	
（イ） 教科・種目別の観点	①道徳的な課題を生徒が自分との関わりの中で、主体的に考え、自分の考え方、感じ方を明確にすることができるよう、「考える道徳」につながる内容構成になっているか。	①内容項目をあえてタイトルページに示していない。 ①それぞれの教材の発問は2つずつで構成されている。1つ目の発問は、その物語や内容の理解を助けるためのもの。2つ目の発問は教材から学んだことをどのように自分の生活にいかすことができるか考える発問になっている。 ①「哲学×道徳」というページでは、「当たり前を疑い、深く考える」ことをテーマに作成されており、様々な意見が期待でき、議論が深まるように工夫されている。	
	②自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えるために、多様な考え方、感じ方と出あい交流する「議論する道徳」につながる内容構成になっているか。	②「考えよう、深めよう」により、自分の考えようを深める工夫がなされている。 ②教材の理解をウェルビーイングで行うことで、本時の議題を考えることができる。 ②文章で表現された物語教材以外に、絵や写真から情報を読み取ったり、過去の事例を題材に話し合ったりする教材がある。	
	③発達の段階に応じて、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れるための工夫や配慮がなされているか。	③体験的な学習を円滑に行うためのツールとしてウェルビーイングカードを活用した教材がある。	